

生活支援コーディネーターだより

ちいきのじ



地域の虹



Vol. 13 令和3年1月発行

編集・発行 社会福祉法人 加古川市社会福祉協議会



令和2年は、思わぬ新型コロナウイルス(以下「コロナ」という。)の影響で地域活動が停滞し、今まで培ってきた住民同士のつながりを維持することが難しい状況になりました。

今後、まだまだコロナの影響が懸念される中で、新しい生活様式でのつながり方を改めて検討していく必要性を感じます。

新しい年が始まり、社協では気持ちも新たに生活支援体制整備事業を進めていきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

～コロナ禍での、新しいつながり作り～

つどいの場から新たな広がりへ



別府町の中島会館では、食べる力や飲み込む力をつける介護予防活動として「カミカミ体操」実施しています。

マスク着用での「カミカミ体操」が難しい中、体操がしやすいように、顎下を覆わない形のマスクをしている男性参加者がいました。そのマスクは、男性参加者が考案し、ご自分で作られたものでした。

「カミカミ体操」の主催者は、このマスクを他の方にも紹介するため、男性参加者に講師役を依頼し「マスクづくりの会」を開催しました。



▲マスク作りの様子

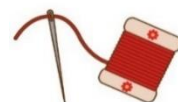


▲マスク着用の様子

当日、参加した人は、好みの布を持ち寄り、色柄合わせを楽しんでマスクを完成させました。

講師の男性は、「自分がマスクの作り方を伝えることで、みんなが喜んでくれて嬉しい。」と言われ、やりがいを感じている様子でした。

つどいの場に参加する男性は少ないですが、男性でも強みを活かした役割を持つことで、積極的な参加につながっています。



別府町ささえあい協議会

ささえあい協議会では、広域型サロン「おたがいさまサロン別府」の活動を、今年度はコロナの影響で中止としました。スタッフは、今まで築いてきた参加者同士の繋がりを大事にしたいという思いで、工夫をこらして参加者にメッセージを送り続けています。

7月は、「暑中見舞い」はがき、9月は「おがたいさまサロンたより」を送付しました。11月は参加者からの思いや近況を返信できるよう「ぬり絵つきのメッセージカード」を往復はがきで送付しました。

参加者からは、思い思いの色塗りと共に、「みんなと会える日を楽しみにしています」などの、たくさんのメッセージが寄せられました。



▲往復はがきの返信

野口町ささえあい協議会

ささえあい協議会では、今後、「高齢者のつどい場づくり」を目標に、活動を進めていくことになりました。

そこで、10月31日 地域包括支援センターのぐち主催の「野口町中・南地区サロン交流会」に、ささえあい協議会メンバーも参加しました。

緊急事態宣言解除後、サロン運営者の皆さんは、今後どのようにサロンを開催していくべきか等、不安な気持ちを抱えていましたが、サロン交流会で悩みを共有したり、開催に向けての知恵や工夫を話し合うことができました。

サロン運営者が、高齢者の居場所づくりのため、ふれあいサロンを実施したいという熱意を知る一方で、コロナの影響で今までのようにサロンを開催することができない状況も理解することができ、ささえあい協議会にとっても有意義な意見を聴く交流会となりました。



▲サロン交流会の様子

<編集後記>

昨年度はコロナで始まりコロナで終わった1年でした。しかし、その中でも新しいつながりが生まれています。今年も少し視点を変えて、無理なくできることから活動を実施し、with コロナを目指していきたいと思えます。

